

第3次軽井沢町

子ども読書活動推進計画

令和2年3月

軽井沢町教育委員会

軽井沢町立図書館

目 次

第1章 計画策定にあたって(基本方針)

1 策定の目的	1
2 国の動向	1
3 県の動向	1
4 軽井沢町の動向	2
5 計画の目標	2
6 計画の対象	2
7 計画の期間	2

第2章 第2次軽井沢町子ども読書活動推進計画の評価

1 第2次軽井沢町子ども読書活動推進計画の評価	3～4
-------------------------	-----

第3章 子どもの読書活動の現状と推進のための取り組み

1 家庭や地域等における現状と取り組み	5
①保健センター ②子育て支援センター	5
③ボランティアの支援・活動の拡大	6
④町立図書館の現状と取り組み	6
2 幼稚園・保育園・児童館における現状と取り組み	7
①幼稚園・保育園 ②児童館	7
3 学校における現状と取り組み	8
4 その他の取り組み	9
5 計画施策体系	10～11
6 子ども読書活動の現状と今後	12～13

資料

- 子どもの読書に関するアンケート調査結果
- 図書館アンケート調査結果

第1章 計画策定にあたって（基本方針）

1 策定の目的

子どもの読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで有効なもののひとつです。生涯にわたって学び、身につけていくべき知識や教養などを深めるための手段が読書活動です。

一方、パソコン・インターネット・スマートフォンなどの情報メディアの普及により、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。子どもの活字離れは今後一層進むことが考えられるものの、子どもの年代ごとに効果的な取り組みを行い、子どもたちの読書環境を整備することで、主体的な読書活動に取り組むことが期待されます。

こうしたことも踏まえ、軽井沢町では図書館を運営していくなかで、子どもの読書に親しむ環境づくり、家庭や地域との連携を深め、図書館を通じ人と人とのふれあい、コミュニケーションを高めていくことが大切だと考え、地域全体で取り組み推進するための目標としてこの計画を策定します。

2 国の動向

平成13年に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）に基づき、5年（平成30年度～令和4年度）にわたる子どもの読書活動推進に関する基本方針と具体的方策を明らかにした、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が、平成30年4月に閣議決定されました。

この計画によると、読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取り組みを推進することと、友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取り組みを充実させること等を基本的方針として掲げており、子どもの実態やそれを取り巻く状況の変化を踏まえ、取り組みの充実・促進を図ることとされています。

3 県の動向

「子どもの読書活動の推進に関する法律」や「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ、平成27年度から5年間を計画期間とした「第3次長野県子ども読書活動推進計画」が策定され、続けて子どもたちが自主的に本に親しみ、生涯にわたり読書習慣を身につけられるよう子どもの読書活動の環境整備に取り組む指針などが明記されています。

4 軽井沢町の動向

軽井沢町は、平成23年に「軽井沢町子ども読書活動推進計画」、平成27年に「第2次軽井沢町子ども読書活動推進計画」を策定し、子ども読書活動を関係機関とともに推進してきました。図書館は交流施設併設図書館として平成25年4月に中軽井沢図書館が開館してから、貸出冊数は増加傾向にあります。また、平成28年、中学校建設に併せて学校図書館システムを稼働させ、家庭や地域などの各関係機関においても一定の成果を上げており、引き続き子どもの読書活動の推進をしていく必要があります。

5 計画の目標

この計画は、「軽井沢町子ども読書活動推進計画」を踏まえ、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」・「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」や県の「長野県子ども読書活動推進計画」を基本とし、子ども読書活動の指針を策定するものです。これらを考慮し、軽井沢町の子どもの読書活動の現状を把握し、家庭、学校、地域それぞれに応じた取り組みを示し、読書活動の推進を図りつつ、将来への夢と希望を持ち健やかに生きぬく力を持つ子どもを育てる指標とします。

6 計画の対象

対象は、0歳から18歳までとします。

7 計画の期間

この計画は、令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

第2章 第2次軽井沢町子ども読書活動推進計画の評価

1 第2次軽井沢町子ども読書活動推進計画の評価

団体名	評価
保健センター	<ul style="list-style-type: none">・平成27年度から令和元年度（1月末現在）、ファーストブックは合計645冊、セカンドブックは合計623冊の配布を実施した。・妊娠届出時やマタニティスクール、各種健診時に本に触れ合う機会の提供や読み聞かせの啓発を実施した。・3歳児健診時には、ボランティアによる絵本の読み聞かせを年7回実施した。
子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none">・0.1歳向け、2.3歳向けに毎月「おはなしでてこい」での読み聞かせの実施や、本に親しむことを目的とした講演会を年数回開催することにより、親子のふれあいを大切にしながら、本に親しむきっかけを作れた。
保育園	<ul style="list-style-type: none">・各クラス年齢に合わせた絵本を置くことで、絵本に親しみを持ち、自由に絵本を見たり読んだりできるようになっている。・ボランティアの方の読み聞かせや語りを園児も楽しみにしている。また保育士も良い勉強になっている。・毎日、午睡前や降園前に絵本を見る時間を作り、お話の世界を楽しむことができている。・廊下に絵本のコーナーを作ったことで、読みたい本を自由に読んだり、季節に合った絵本を読んだりすることができ、子ども達の絵本への興味が広がっている。コーナーの設置が良かった。

団体名	評価
児童館	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせや本の紹介、紙芝居などを行うことにより、本に興味をもつ親子が増え、その場で母親が読み聞かせをしてあげたり本を借りたりする姿があった。 ・館内の壁面装飾とともに図書室でも季節ごとに本の紹介コーナーを設け、幼児や児童にも関心をもつように工夫したことにより、そのコーナーの本を読むことが多くなった。 ・発達段階に応じた読書指導をし、中学校へ橋渡ししたい。 ・幼児のつどいでは、紙芝居、絵本、パネルシアターを行っている。絵本を使って、読み聞かせの充実化を図りたい。
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等の場面では、タブレットを使用しているインターネット活用が増えていると考えられる。従って、書籍で調査したり、学習を進めたりする良さを知る学習の重要性も、今後高まってくるだろう。 ・学校間で蔵書の情報が共有できるネットワーク化については、今後も継続した研究が必要である。 ・図書館の活用については、学校全体で読書をする時間の確保に取り組んでいるため、児童が本に親しむとともに学習においても図書館の活用が図られている。毎日の図書館授業での読み聞かせは実施しており、児童もとても楽しみにしている。
町立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの各年齢層に合った図書資料を充実させるにあたり、中高生を対象としたヤングアダルトコーナーを拡張、選書した。 ・関係機関とのコラボコーナーを作成した。 ・子どもの読書に関する講演会や講座を定期的に行うことができなかった。

第3章 子どもの読書活動の現状と推進のための取り組み

1 家庭や地域等における現状と取り組み

初めて子どもたちが本とふれあい、読書の楽しさを体験する大切な場所はまずは家庭です。読書の楽しさを体験し、本の出会いとともに地域で多くの人と出会い、その積重ねにより成長していきます。

その機会を与えるために図書館をはじめ、地域の関係機関が連携し、保護者に働きかけ、子どもの読書環境を支援していきます。

① 保健センター

《 現状 》

保健センターでは、絵本の読み聞かせを通して、親子のふれあいを促進し、子どもの豊かな心を育むために絵本を配布しています。

「ファーストブック」は平成19年12月より実施しており、母子手帳発行に合わせて、配布しています。

「セカンドブック」は平成22年度から実施しています。3歳児健診の時に配布し、ボランティアによる読み聞かせを実施しています。

【 取り組み 】

・時代にあった配布絵本の検討をはじめ、ボランティアによる読み聞かせや、妊娠届出時やマタニティスクール、各種健診時に読み聞かせの啓発を実施し、子どもの感性や思考力、想像力を養い、親子のふれあい、人とのふれあいを深め、読書に親しむように努めます。

② 子育て支援センター

《 現状 》

子育て支援センターは、子育て家庭に対して育児の不安解消や相談指導、乳幼児の遊び場とその保護者の交流の場を提供するとともに、子育ての情報を収集し、周知を行い、地域全体で子育て家庭を応援しています。その中で、0歳児から3歳児向けの読み聞かせの実施や、絵本アドバイザーによる講演会を実施しています。これは特に大切なことで引き続き取り組んでいきます。

【 取り組み 】

・「読み聞かせ」「講演会」などを充実させ、親子で本に親しむきっかけを提案し、子育て事業を側面から応援します。
・利用者の年齢に沿った0.1.2歳向けの本の充実を図り、親子のふれあいを大切にしながら、本に親しむ環境づくりに努めます。

③ ボランティアの支援・活動の拡大

《 現状 》

図書館を中心に活動しているボランティア団体の支援や図書館以外の団体からの依頼を受け、ボランティア派遣などの事業拡大に努めています。

(おはなしツリー・くろのの会・オオルリなど)

【 取り組み 】

・図書館を地域の読み聞かせボランティア団体等の、相互の交流や情報交換の場とするとともに、読み聞かせの技術向上を図るための講習会等の実施、また、研修会などの情報を伝えていきます。

④ 町立図書館の現状と取り組み

《 現状 》

町立図書館は、昭和51年開館の離山図書館と平成25年4月開館の中軽井沢図書館があり、児童エリアについては中軽井沢図書館で充実させています。子ども向けの読み聞かせ等、ボランティア団体の協力により、読書に親しみやすい環境づくりに努めています。

【 取り組み 】

・子どもの読書活動の中心的な役割を図書館も担い、乳幼児から小・中・高校生などの各年齢層に応じた読書活動の支援をさらに行っていきます。

・中軽井沢図書館は、幼児・児童などにとって気軽に使いやすい図書館を目指し運営に取り組んでいきます。

- 1 基本理念に「子どもが読書に親しむ図書館」を掲げます。
- 2 子どもたちが読書を通じて豊かな心を育めるような児童エリア、おはなしスペースを設置し、周囲に気遣いなく読書活動ができる環境を整えます。
- 3 子どもの読書活動に関する事業の充実を図ります。

・親子で本を読む楽しさや大切さを伝えるため、子どもの読書に関する講演会や講座を引き続き開催していきます。

・児童コーナーに、四季おりおりの飾り付けをし、親しみやすい雰囲気を作り、情報交換の場所としての活用を図ります。

・乳幼児から高校生まで各年齢層に合った図書資料の充実と配架等の工夫をし、分かりやすいレイアウトに努めます。

・こもれびの街講座による出張おはなし会や、子どもの読書活動を行っている団体を対象に団体貸出を実施します。

・積極的に研修会等に参加し、職員のスキルアップを図ります。

・子どもたちが自分の育った地域を知ることができるよう地域資料を収集し、軽井沢学に結びつく学習ができるよう取り組みます。

・ホームページや広報を通じて、本の新着案内や図書館行事などの情報を提供し、読書活動の啓発に努めます。

2 幼稚園・保育園・児童館における現状と取り組み

幼稚園・保育園・児童館は、子どもにとって初めての集団生活の場です。

乳幼児における教育は多くの事を学び、心身の成長を促し、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために必要です。

こうした集団生活の中での本との出会いは、これからの読書習慣の基礎となり、そこで、「本にふれること、読むことの楽しさ」を子どもたちや保護者に伝えていきます。

① 幼稚園・保育園

《 現状 》

幼稚園・保育園では、絵本やお話しにふれあうきっかけになる活動をしています。

職員による読み聞かせなどを毎日行い、本に親しむ環境を作るとともに、保護者への読書活動推進のための啓発を行っています。

【 取り組み 】

- ・自由に本を手にとって読める環境づくりを推進するとともに絵本（資料）の充実を図ります。
- ・職員間での読書活動の情報交換を行い、絵本に対する知識や、読み聞かせの向上を図ります。
- ・ボランティアなど読書活動協力団体との協力を積極的に行い、幼稚園、保育園での支援をしてもらいます。
- ・「園だより」「クラス便り」にお薦めの本の紹介などを掲載し、保護者に対して読み聞かせの大切さを啓発していきます。

② 児童館

《 現状 》

児童館は、健康増進や情操豊かな心を培う健全育成の場として利用していただいています。そのために、来館児童や保護者には家庭での読み聞かせや本からの知識向上のため貸出を行っています。

【 取り組み 】

- ・「館だより」を通じ家庭での読書、読み聞かせの大切さを啓発します。
- ・館内は本の案内ポスター、図書コーナー、配架などを工夫し、児童が興味を持つような環境づくりをします。
- ・職員間及び研修会に参加することでの読書活動の情報交換を行い、絵本に対する知識や、読み聞かせの向上を図ります。
- ・ボランティアなど読書活動協力団体との協力を積極的に行い、児童館での支援をしてもらいます。

3 学校における現状と取り組み

学校は、子どもが本に親しみ、生涯にわたる読書力の基盤を育てる大切な場所です。学校では、毎日の学習や読書活動を通じ、読書習慣が身に付くよう、本とふれあう機会を積極的に作っています。

また、調べ学習などでは本を活用し、課題解決を図る学習活動を行っています。

《 現状 》

読書は子どもの思考力、想像力を高め、豊かに生きる力を育みます。学校ではこれまで様々な読書活動を行い、子どもたちの読書活動を推進してきました。

【 取り組み 】

- ・小・中学校において、読書への親しみを広げるため、ボランティア・PTA・担任・職員による読み聞かせなど多様な読書活動を、各学校の特色や創意工夫により実施していきます。
- ・朝の読書をはじめ、読書時間の拡大を図り、読書の大切さや楽しさを伝えていきます。
- ・各教科での「調べ学習」を積極的に行い、授業を通じて学校図書館の利用促進を図ります。
- ・ボランティア・PTA等読書活動協力団体の活用を積極的に行い、学校での支援をしてもらいます。
- ・子どもの多様な興味や関心に応える図書、また各教科や総合学習の時間に使用する図書等の充実を図ります。
- ・各学校図書館の職員と、司書教諭との連携を図るとともに、研修にも積極的に参加し、子どもの読書活動を支援していきます。
- ・学校図書館の役割などを共通認識し、運営、整備、利用などの共通する基本的なガイドラインを作成します。
- ・各学校図書館を利用しやすくするため、学習や読書の推進を図ると同時に、各学校図書館や町立図書館との連携を推進するためのネットワークの研究をしていきます。

4 その他の取り組み

子どもたちや保護者に対し、読書の楽しさや意義を伝えるために町立図書館が中心となり、「子ども読書の日」「読書週間」などの情報を各関係機関に提供し、子どもの読書活動の充実に努めます。

軽井沢町の文化や歴史などの特性を生かした読書活動、図書館利用をすることにより、地域への誇りを持ち、軽井沢町を担う子どもたちの意識を高めるよう整備を行います。

【 取り組み 】

- ・幼児から高校生まで、子どもの発達段階に応じた推薦図書などを、各関係団体と連携し、リストを作成して、児童生徒へ配布し読書の啓発に努めます。
- ・子どもたちに町の文化や歴史、ゆかりのある作家などの情報が読書から学べるよう、地域資料の充実、整備を図ります。また、子ども向け歴史講演会などの開催も検討します。
- ・軽井沢町デジタルアーカイブ事業を実施し、子どもたちの生涯学習が、学校はもちろん、家庭でもできるような文化創造の発信地となるようネットワークの充実を検討します。

5 計画施策体系

	主な施策	取り組むところ
家庭・地域等	「ファーストブック」「セカンドブック」の配布・援助	保健福祉課・図書館
	家庭における優良図書の紹介	図書館
	子どもの読書に関する講演会や講座の実施	図書館 子育て支援センター
	図書館の事業・運営整備	図書館
	児童エリアの整備	図書館
	児童図書、ヤングアダルト向け図書の充実	図書館
	「おはなしの会」や講演会などの実施及び周知	図書館 読書ボランティア
	図書館職員の研修	図書館
	読み聞かせボランティアへの協力	図書館 読書ボランティア
	児童館などへの団体貸出の実施	図書館・児童館 子育て支援センター
	児童館などにおける児童図書の充実及び図書館との連携	図書館・児童館 子育て支援センター
児童館及び子育て支援センターにおける「読み聞かせ」の実施・読書時間の拡大	図書館・児童館 子育て支援センター 読書ボランティア	
保育園等	絵本コーナーの充実	幼稚園・保育園 図書館
	保護者に対する「読み聞かせ」の啓発活動	幼稚園・保育園 児童館・図書館
	「読み聞かせ」の充実	幼稚園・保育園 図書館
学校	魅力ある図書館、読書活動の実施	各学校図書館
	読書時間の拡大	各学校図書館
	各教科における、調べ学習による図書館利用の促進	各学校図書館 図書館
	ボランティアの協力による読書活動の推進	各学校図書館 読書ボランティア
	図書資料の整備と充実	各学校図書館
	図書館指導員の専任配置	各学校図書館

主 な 施 策		取 り 組 む と ころ
学 校	担当職員および司書教諭等の研修	各学校図書館
	学校図書館運営の共通ガイドライン作成	各学校図書館
	学校図書館管理システム・ネットワークの研究	各学校図書館 関係機関
	相互の資料提供及び貸出	各学校図書館 図書館
関 係 機 関	図書館間の連携 ・ 協力	図書館 ・ 関係機関
	子どもの発達段階に応じたブックリストの作成	各学校図書館 図書館 ・ 関係機関
	各学校図書館担当職員等の連絡会開催	各学校図書館 図書館
啓 発 ・ 広 報	広報による図書館新着案内等の充実	図書館
	図書館ホームページの充実	図書館
	児童向け図書館案内の作成 ・ 配布	図書館 ・ 関係機関
	児童向け推薦図書等の啓発促進	図書館 ・ 関係機関
文 化 ・ 歴 史	図書を使っての文化 ・ 歴史講演会などの実施	図書館
	軽井沢にゆかりのある作家コーナーの充実	図書館
	地域資料の整備と活用（軽井沢学）	図書館
	アーカイブの実施による文化創造の発信	図書館

6 子どもの読書活動の現状と今後

	蔵書数 (H31.3月末現在)	読み聞かせ・ おはなしの会の 実施	読書ボランティア活動 (PTAも含む)	子供の読書活動推進のために 取り組んでいる事業 (今後充実させる事業)	貸出冊数
保健センター	約 200 冊	2 か月に 1 回	おはなしツリー ／2 か月に 1 回 (セカンドブック配布時)	・「ファーストブック」「セカンドブック」配布事業の周知・ 充実	
子育て支援センター	約 300 冊	毎月 2 回	行っていない	・0・1 歳向け、2・3 歳向けに月 2 回「おはなしでてこい」で 読み聞かせを実施 ・絵本アドバイザーによる講演会を実施	
幼稚園	統計なし	日に 2 回	なし	・季節、関心、発達に応じて、選ぶ本を大切に考えている ・絵本は表現活動を大切にしている ・折りに触れ、保護者の方々に「子どもと絵本」のお話しを している ・年に数回（季節ごと）おたよりで絵本の紹介をしている ・朝の礼拝時には必ず読み聞かせを行っている	
東保育園	約 1,600 冊	ほぼ毎日	「くろの会」 ／月 1 回	・本を子供の手に届くところに配架し、自由に読んでもらう ・毎日絵本を読み年長児には長いお話を読んでいる ・行事の際は内容を理解するように紙芝居や絵本を使っている ・「クラスだより」などでの絵本紹介 ・午睡前には必ず読み聞かせを行っている ・図書館と呼べる部屋がないので、各クラスに本を置き自由に 読んでもらう	
南保育園	約 800 冊	ほぼ毎日	「くろの会」 ／月 1 回		
中保育園	約 2,000 冊	ほぼ毎日	「くろの会」 ／月 1 回		
西保育園	約 800 冊	ほぼ毎日	「くろの会」 ／月 1 回		
東地区児童館	約 3,600 冊	月 1 回	東部小 PTA「ピノキオ」 (放課後子ども教室にて 実施)／年 1 回	・低学年対象の「ピノキオ」による読み聞かせ ・「幼児のつどい」や行事の際に、絵本に興味を持つように、 絵本の読み聞かせ、本の紹介、紙芝居、パネルシアターを 行っている ・図書室で季節に合わせて館内の本の紹介をしている ・学習室にも書架を置き、本に触れる機会を作っている	3 冊
西地区児童館	約 2,800 冊	不定期実施	なし	・「幼児のつどい」や行事の際に七夕、節分などに関する本の 読み聞かせをして本に触れる機会を作っている ・絵本を読んでほしいという子が来館の際には必ず読み聞かせ を行う ・「館だより」の充実 ・放課後子ども教室で検討	3 冊
長倉地区児童館	約 3,400 冊	なし	なし	・「幼児のつどい」や行事の際に、七夕、節分などに関する本の 読み聞かせをして本に触れる機会を作っている	3 冊
中軽井沢児童館	約 3,000 冊	なし	なし	・「館だより」の充実 ・毎月、図書コーナーを作り読書を進めている ・図書室以外の部屋にも本を配架し、本に親んでもらう	3 冊
中地区児童館	約 2,100 冊	なし	おはなしツリー読み聞かせ (不定期)	・「館だより」の充実 ・毎月、図書コーナーを作り読書を進めている ・「幼児のつどい」や行事の際、絵本の紹介・読み聞かせ・ 紙芝居やパネルシアターを行っている	3 冊
南地区児童館	約 3,900 冊	不定期実施	なし	・「館だより」で本に親しむ呼びかけの実施 ・新刊をあらすじとともに掲示し、読む意欲を高める ・児童が自主的に本を選ぶような配架の工夫 ・お薦め本のポスターを児童に書いてもらう	3 冊

	蔵書数 (H31.3月末現在)	読み聞かせ・おはなしの会の実施	読書ボランティア活動 (PTAも含む)	子供の読書活動推進のために 取り組んでいる事業 (今後充実させる事業)	貸出冊数			H30年度 1ヶ月の貸出冊数 1人あたり1ヶ月平均	(目標値)R5年度 1年間の貸出冊数 1人あたり1年間平均
					平日	休前日	その他	H30年度 1年間の貸出冊数 1人あたり1年間平均	
軽井沢 風越学園 (令和2年4月 開園・開校)	約30,000冊 (2020年度中)	検討中	検討中	・子どもの自由な読書・学習空間である とともに授業でのライブラリーの活用 推進、保護者や地域との連携	年少児～2年生1冊 3年生～6年生3冊 中学生5冊		検討中	-	未定
東部小学校	約15,000冊	毎日の図書館 授業で実施 (その他に月3 ～4回実施)	・ピノキオクラブ /年5回 ・朗読ボランティア オオルリの朗読会	・朝読書の充実 ・担任、PTA、職員による 読み聞かせの実施 ・館内表示の工夫 ・興味を引かせるコーナーの設置 ・絵本、シリーズものの充実	2冊	4冊	授業のため の貸出 …制限なし	6冊 71冊	75冊
中部小学校	約15,000冊	毎日の図書館 授業で実施 (その他に月3 ～4回実施)	・おはなしクレヨン /週1回月曜日 (1年生～3年生) ・本棚委員会 /年4回 ・くろの会 (秋の読書週間)	・朝読書の充実 ・読書旬間に図書委員、先生方の読み聞 かせ、スタンプラリーでしおりのプレ ゼント、親子ふれあい読書の実施 ・図書委員のおすすめ本の紹介ポスター ・全校集会で、図書館マナーの劇やクイ ズの実施 ・季節にあったコーナー作り ・図書館新キャラクター「としょネコ」 ・「としょネコ通信」の発行	2冊	2冊	授業のため 資料として 利用の場合 …制限なし	8冊 68冊	80冊
西部小学校	約15,000冊	毎日の図書館 授業で実施	・西部小PTA /年3回 (各クラスへ) ・まるいたまご /年1回(音楽室)	・語りや担任、PTAによる読み聞かせ の実施 ・親子読書カードによる家庭での読書習 慣推進 ・先生のおすすめ本の紹介。図書委員 による読書週間や旬間での放送での本 紹介、全校集会、高学年から低学年へ のペア読書の実施 ・貸出冊数の検討 ・館内表示の工夫。読書量の多い児童へ の3冊貸出券やしおりプレゼント	2冊	2冊	読書週間や 長期休校時 …3冊	7冊 85冊	86冊
中学校	約18,000冊	なし	なし	・図書館だよりの発行 ・朝読書の充実 ・「春の読書週間」 「秋の読書週間」の周知	2冊	3冊	読書週間や 長期休校時 …3冊	2.4冊 28.5冊	30冊
高校	約20,000冊	なし	なし	・毎週火曜日に朝の読書 ・タブレットも利用した図書館での探究 学習(今後の取り組み)	無制限	無制限	常時、無制限	0.7冊 9.3冊	9冊
町立図書館 (年間利用者数 約180,000人)	約134,000冊 (うち児童関係: 約22,000冊)	月1回	・おはなしツリー おはなし会 /月1回 ちいさなお ともだちの おはなし会 /偶数月1回	・読書週間に合わせた「おはなしの会」 など行事の充実 ・時候に合わせたコーナー本・配架など レイアウト充実 ・各年齢層にあった図書資料の充実 ・周囲に気兼ねなく読み聞かせができる エリアの配慮 ・ボランティアとともに「セカンドブ ック」配布の協力 ・子ども読書推進のための講座(講演) の開催 ・こもれびの街講座「おはなしお届け します」の周知	1人10冊 (内雑誌は5冊まで) (視聴覚資料は上記 とは別に2点まで)	団体貸出 …100冊以内 (大型絵本) (大型紙芝居)	年間総貸出 冊数: 164,479冊	年間総貸出冊数: 180,000冊	